

ノロウイルスから得た教訓

近年、感染対策は病院の質を大きく左右するものとなった。現在はスタンダードプリコーションや、感染経路別対策の考え方が浸透してきたが、それは日々の多忙な業務のなかで確実に遵守し、かつそこに関わっている者すべてが行なっていかなければならない。

当院は高齢化率 30 % を超える地域にあり、医療型療養病床を含む 152 床の小規模病院である。そのため外来・入院患者さんの年齢層も高い。当院では数年前、ノロウイルスによる感染が発生した。幸いにも重症化することはなかったが、多くの課題を残すこととなった。以後はそのときの教訓を活かして、直接治療やケアに当たる者だけでなく、栄養科や清掃業者など、全職員がマニュアルに沿った感染防止対策を行なっていくことを徹底していった。

当院の感染防止対策は、「院内感染対策マニュアル」を理解することから始まる。新入職員に対しては、新採用時のオリエンテーションでその概略を説明している。しかし中途採用者も多く、スタンダードプリコーションや感染経路別対策という言葉を知らない者もいる。そのため 2 か月に 1 回、院内感染パトロールを全職場に行ない、パトロールでは「院内感染対策マニュアル」に記載されている内容を質問したり、実際に行なっている状況をチェックするなど対策の徹底を図っている。

DVD で気づかされた防止策の盲点

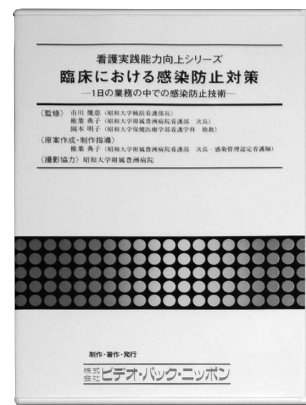
2 部に分かれた本 DVD は、1 部が「新

人看護師の一日」をテーマに、日常業務を行なっていくなかでの感染対策を考えていくことができる。そして 2 部の「感染防止技術の基本と実践」では、1 部で行なわれていた感染防止技術が丁寧に説明され、実践の様子が紹介されている。

そこであらためて気づかされたことは、自分の髪が患者に触れることがないように、身だしなみをまず整えることの大切さである。

またこの DVD では、ケアの一連の流れのなかで、感染対策をどのように行なうのかという点を、細かな動作で振り返ることができる。例えば、吸引後のカテーテルを拭いた綿花の処理について、現在は一旦小さなおみ袋に廃棄しているが、直接廃棄ボックスに入れるほうがよいのかなど、自施設でもケースによって確認をすべきところがあった。このように現在の状況と比較しながら視聴することも職員の意識を高めることにつながると感じた。

感染対策はその方法を理解しただけでは意味がない。防止策が全職員の日常業務のなかに習慣として溶け込んでいることが必要である。感染防止対策を知らない、または面倒くさいから行なわないという人が 1 人でもいれば、他の人の行為が無駄になってしまう。またこれはそこで働く人だけでなく、患者自身や家族にも実行してもらう必要がある。そのことからぜひ今後は、看護助手の方や患者・家族をも対象にしたわかりやすい DVD があればいいと思った。



看護実践能力向上シリーズ 臨床における感染防止策

市川幾恵、椎葉典子他 監修
定価 33600 円
(本体 32000 円 + 税 5 %)
ビデオ・バック・ニッポン
TEL 03-3405-3176

院内感染対策マニュアルの 間隙をつく実践型 DVD

岡島恵子 聖隷淡路病院看護部長

評
DVD